

【臨床・研究】

当院における在宅酸素療法患者の検討

とく やす ひろ かず わた なべ えつ こ おか ざき りょう た¹⁾
 徳 安 宏 和¹⁾ 渡 部 悦 子¹⁾ 岡 崎 亮 太¹⁾
 かわ きき ゆう じ し みず えい じ²⁾
 河 崎 雄 司¹⁾ 清 水 英 治²⁾

キーワード：在宅酸素療法，5年生存率

要 旨

当院における在宅酸素療法導入患者の検討をおこなった。1988年より2006年1月までに225例にHOTが施行され，男性148例，女性77例で，原因疾患は，COPD 79例で，間質性肺炎38例，肺癌33例，肺結核後遺症28例，転移性肺腫瘍18例，心不全8例であった。死亡原因の明らかな154例では肺癌が37例，その他の癌33例，COPD 21例，間質性肺炎17例，肺炎12例の順に多かった。HOT患者の5年生存率は13.7%であった。性別での5年生存率には差はなかった。疾患別では心不全の5年生存率；46.5%，肺結核後遺症；39.1%，COPD；24.3%，間質性肺炎の3年生存率；12.4%，腫瘍の2年生存率；8.7%であった。COPD，肺結核後遺症の5年生存率は全国調査と比較して低率であり，これは当院におけるHOT患者の平均年齢が高く，また悪性腫瘍の合併症をかかえる患者が多かったことが考えられた。

はじめに

欧米での慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者に対する長期酸素療法の有効性の報告以来，わが国においては1985年（昭和60年）より在宅酸素療法（Home Oxygen Therapy：以下HOTと略す）の健康保険適応が開始され，現在では約12万人を超える患者に導入されている。当院においては1987

年より患者にHOTの導入を開始し，2006年1月までに225例にHOTが施行された。HOTは呼吸器疾患だけでなく，循環器疾患，悪性腫瘍などでも利用され，全ての慢性呼吸不全患者における重要な治療法である。これまでわが国における在宅酸素療法患者の疾患別予後は1996年に厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班により調査され報告されている。島根県は高齢者の占める割合が全国一であり，HOTを導入された患者の平均年齢も高く，また合併症をかかえる患者も多いと考えられる。今回われわれは高齢県といえる島根県の基幹病院である当院における在宅酸素療法患者の導

Hirokazu TOKUYASU et al.

1) 松江赤十字病院呼吸器内科

2) 鳥取大学医学部分子制御内科

連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200